

第2回神戸マラソンの応援・観戦者の動向

兵庫県立大学地域経済指標研究会

兵庫県立大学政策科学研究所教授

加藤 恵正

兵庫県企画県民部統計課・ビジョン課

芦谷 恒憲

(兵庫県立大学客員研究員)

神戸女子大学(兵庫県立大学客員研究員)

小沢 康英

平成24年11月25日に、第2回神戸マラソンが開催された。昨年度の第1回大会と同様にコース沿線は多くの応援・観戦者で埋まった。応援・観戦者からの声援、視線、沿線のイベント等は、ランナーの励まし、交流をもたらし、大会を盛り上げた。

応援・観戦者は、大きく2つに分けられる。一つはランナーの家族・知人であり、もう一つは走っているランナーを見ること、大会の臨場感を楽しむ人々、ランナーと一緒に大会を盛り上げようとする人々である。

始めのランナーの家族・知人に関しては、普段一緒にいる人が大変な体力・忍耐力が必要なマラソンに参加する訳で、応援も走っているところをみて励まそうという動きが中心になる。コース沿線の複数のポイントを移動し、ポイント毎に応援を行い、最終のゴールで完走を喜び合う方も多い。他方、遠方から参加された方のなかには、何度もマラソンに参加しているランナーもおり、応援・観戦者の方は応援・観戦もするけれども、せっかく神戸に来たのだから、神戸観光を楽しむ要素が大きいこともみうけられる。

また、家族・知人がマラソンに参加しないものの、大会の臨場感を楽しむ人々、ランナーと一緒に大会を盛り上げようとする人々は、多くのランナーが様々なスタイルで走っていく様子を見ること、ランナーとの交流などから、元気や楽しみをもらうこととなる。また、団体を踊ったり、音楽を奏でたり、応援グッズを利用して沿線を盛り上げたりと、応援・観戦者の活動自体が楽しみにもなる。若松公園、舞子公園、ホームズスタジアム神戸(御崎公園)、ゴール地点を中心に多様なイベントが行われたが、こうしたイベントの見学・参加も応援・観戦者の楽しみとなる。大会を楽しもうという方々のなかにも、2・3人の少なめな人数でランナーの走りや大会の雰囲気を楽しむという応援・観戦者がいる一方、地元や職場の仲間が集まり応援の企画・実施をしたり、所属している団体がイベントに参加するなど自身も活動する、活動の一部を担う応援・観戦者がいるという違いもみられる。神戸マラソンに参加するランナーと共に応援・観戦者の動向も様々な特徴があり、それぞれのニーズを満たすような取り組みを進めることが、神戸マラソンをよりよいものにしていくことにつながろう。

「神戸マラソン」の応援・観戦者向けアンケート調査の概要

(詳細は研究資料 No253 (2013年5月))

神戸マラソンを応援・観戦した人々の動向を把握するため、コース沿線で応援・観戦している方に対してアンケート調査を実施した。

(1) アンケート調査の実施概要

実施日 : 2012年11月25日(日)

実施場所 : 若松公園(5km地点付近)、舞子公園(18km地点、折り返し地点付近)、ホームズスタジアム神戸(31km地点付近)、ゴール(ポートアイランド)

<規模の大きい沿道応援イベントが展開された地点で調査を実施>

対象 : 神戸マラソンのコース沿線において応援・観戦している方

調査方法 : 調査員が被調査者に調査票を配布し、被調査者が回答を調査票に記入す

る方法で実施。

回収標本数 : 256件

(2) アンケート回答者の特性

アンケート回答者の特性をみると、居住地ではコースの近隣が約半分となっている。性別では女性がやや多く、年齢別では20才台・30才台及び40才台・50才台がやや多い。アンケート実施に当たり、統計的有意性確保の見地から、年齢、性別等階層別に可能な限り均等標本数の確保に努めたため、回答者の階層別構成比が必ずしも母集団の構成比には一致していないことに留意する必要がある。

神戸マラソンの個性確立に向けた取り組み

・ 応援・観戦がしやすい、楽しめるコース沿線の改善

第1回大会に比べて、応援・観戦がしやすくなったという声が多く聞かれた。一方、もう少し応援・観戦が楽しめる工夫が欲しいとの声もあった。また、他のマラソン大会において応援・観戦の体験のある方からは、市内の移動の案内や走り終わったランナーとの待ち合わせなど改善の余地がまだまだあるとの意見が聞かれた。ランナーへの配慮と共に、応援・観戦がしやすく、楽しめるような工夫を加えていくことが大切である。

・ スポーツ、健康関連グッズへの需要増加

マラソン開催によりランナーや応援・観戦者といった参加者を中心としてスポーツ・健康関連消費を拡大するという効果がある。この効果を継続し、より一層、高めていくためには、新たなランナーや応援・観戦者などマラソン参加者の確保や、マラソン参加者・県民の関心・ニーズに見合った魅力あるソフト・サービスの維持・充実などが求められる。

・ 経済効果を高めていく工夫

スポーツ・健康分野など新たな分野の消費需要の創出、幅広く裾野が広い産業部門を視野に入れた地域経済のバランスある貢献、地域内自給率が高く地域内への投資効率の高い産業分野との連携・育成などにより、さらに経済効果を高めるよう取り組んでいくことが考えられる。

・ 沿線市民の応援・観戦への参加の拡大

神戸マラソン開催に伴い、地域のスポーツ・健康に係わる関心、またボランティアマインドやホスピタリティマインドが高まった。こうした運動や交流への関心の高まりをもたらす機会は、地域の人々の楽しみ、生きがいの向上をもたらす。他方、地域の人々の関心の深まり・支持の強まりが神戸マラソンの個性の確立につながる。

以 上